



辛口法律書レビュー

2018年4月

● 企業法務系ブロガー
法科大学院修了後、紆余曲折を経て企業法務界隈に落ち着く。現在も企業法務実務に従事しながら、企業法務系ブロガーとしても活躍中。ブログ「アホヲタ元法学部生の日常」(<http://d.hatena.ne.jp/ronnor/>)。ronnor名義で「アニメキャラが行列を作る法律相談所」(総合科学出版、2011)等を執筆。

法務パーソンが注目しない本の発掘

本連載に期待されているのは、法務パーソンがあまり注目していない良書の発掘であろう。もともと、ここ最近を振り返ると、いわゆる定番書の改訂版や立法担当者による解説書など、既に多くの法務パーソンが注目している本の紹介が多くなっていたことは否定できない^{注1)}。今回は、法務パーソンが目していないと思われる本で、個人的に参考になると感じたものが

#新人法務パーソンへ

私は法務パーソンがどうすればより良く仕事をし、成長できるのかというテーマに強い関心を持っている。ツイッター上では^{注3)}、自分の経験(および見聞きした法務関係者の経験)をもとに「#新人法務パーソンへ」というハッシュタグを使って^{注4)}、法務一般に通用すると思われる内容を投稿しているが^{注5)}、最近、私がツイッター上で行って

あったので紹介したい^{注2)}。

いるような「どのように日々レベルアップしていくべきか」というテーマについてまとめた本に出会うことができたと^{注6)}。それが、田村圭「仕事を通じた学び方」を学ぶ本^{注7)}である。

法務パーソンに特化した内容ではないが、示唆に富んだ本

本書は法務パーソン向けに特化したものではない。しかも150頁前後の薄い本である。しかし、内容はかなり示唆に富んでいる。

本書の問題意識は、仕事を面白くすることができる人はどういう人なのだろうかという点にある。本書では、そのような人とは、「種まき」をしたうえで、日々の仕事の中から「発見」をし、より良いやり方を「収穫」できる人だという仮説を提示する。そのうえで、発見の種まきや収穫の方法について具体的に説明している。

例えば、仕事にはさまざまなやり方・進め方があるが、すべては特

頁)。そうすると、議事録を作るという作業の実施においては、何について誰が何を言ったのかに注意を向けながら、先方と共有することも想定したレイアウトや書き方にする必要があることが分かるだろう。

これに対し、若手に勉強させるため、あるいは、同種の事件を一人で回せるようにするため、議事録の作成を任せる場合もある。そのときは「半年間のミーティング終了後、〇〇業務について一人で説明できる状態」がゴールイメージである(同書32頁)。そうすると、議事録の作成前に予習して当該業務への知識を増やしておく必要がある、当日分からないことがあればメモを取って後で調べたり、その場で質問をしたりする必要もあることが分かるだろう。さらに、議事録に付随して若手法務パーソンが学んだこと等も記載し、先輩のレビューを受けることまで考慮すべきかもしれない。

このように、ゴールイメージ如何でなすべきことが大きく変わってくる。それだけに、ゴールイメ

ジを明確にせず手段を目的化してしまったり、「きちんと〇〇する」といった一人歩きする言葉でゴールイメージを定義してしまったりすることのないよう、あらかじめゴールイメージを上司と適切に擦り合わせておくことが求められる。

また、明確なゴールイメージを持たず、自分の仕事は単なる「作業」ではなくなってくる。その目標をより良く達成するためにはどうすればよいのかという観点から、新たなアイデアも浮かびやすくなり、仕事が工夫のしがいのあるものであることに気づくことができるだろう(同書44〜45頁)。これが「発見の種まき」である。

さらに、「発見の収穫」では、積極的に上司等の評価や意見を取りに行くとともに、うまくいった場合でも、うまくいかなかった場合でも

- ・ どんな状況で
- ・ 何をやったら
- ・ どうなった

という3点セットを自分の中で整理し、常に過去の経験を活かせる

マイセオリー

本書では、このような3点セットを具体的な状況から一般的状況に置き換え、「マイセオリー」(118頁以下)を作ること奨励してい

る。まずは自分で一般化できそうなものから一般化してみ、それが本当に使えるか別の案件でも試し、必要に応じて変更・更新・修正していく。そうすることで、汎用的な能力を自分自身が持つことができるだけでなく、後輩や同僚とも共有できるようになる。

この部分を読んで、「#新人法務パーソンへ」というハッシュタグは自分にとつての「マイセオリー」作りであり、それをツイッターのフォローワーさんと共有しながら、修正の機会をいただいているのだと実感した。

本書のやり方はあくまでも一例であるが、私がこれまで読んできた本の中では最も法務パーソンの成長に役立つ本だと考える。



田村圭/著
「仕事を通じた学び方」を学ぶ本
(ロークワット パブリッシング、2017)
本体1,800円+税

注1) もちろん、水面下ではいろいろとトライ・アンド・エラーを繰り返していたところではある。

注2) 2018年4月に刊行された書籍の中では、長谷部恭男「比較不能な価値の迷路ーリベラル・デモクラシーの憲法理論(増補新装版)」(東京大学出版会、本体4,000円+税)がおすすめである。ただし、法務パーソン向けではないため、本欄では紹介しない。

注3) ツイッターのアカウント名は「@ahowota」である。

注4) 「#新人法務パーソンへ」というハッシュタグをクリックすれば、さまざまな人の「#新人法務パーソンへ」をテーマとした投稿をまとめて見ることができる。

注5) 合計ツイート数は、数年を経て、数百にまで増加している。

注6) いわゆる「〇年目の教科書」的なものやライフハック的なもの、偉大な経営者の訓戒的なものも含め、いろいろとこの分野の書籍は読んできたが、なかなかピンと来るもの、自分の問題意識を反映しているもの、自分の問題意識を反映していると思えるものがなかった。本書はいわば、「自分が言いたかった(がうまく言葉にならなかった)ことを言語化してくれた本」という意味で推薦したいところである。なお、刊行は2017年である。